



さくらだより

第46号

2018年10月15日



特集

平成30年度 介護保険制度改定について

- 京都老人福祉協会の胃袋を支える
きっちんさくら
- こんなサークルやってます
歌の広場
- 新事業所のご紹介
さくらハウス七瀬川
- 事業所リレーコラム ● 編集後記
- 福祉×観光
秋の京都に出かけよう



特集

平成30年度 介護保険制度 改定について



この度、介護保険制度が一部改定されました。介護保険制度は平成12年度に施行され、その後3年に1度を目安に、改定が行われてきました。

2025年には団塊の世代が75歳以上を迎えるため、介護や医療のニーズが更に増えることが予想されます。今後、増え続ける社会保障費を抑え、介護保険制度の持続可能性を高めるため、改定が行われています。

平成30年度は、

4つの観点で改定がされています。

①地域包括ケアシステムの推進

②自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現

③多様な人材の確保と生産性の向上

④介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保

これら4つをわかりやすく表現すると、

- ①住み慣れた地域でずっと過ごしていくような仕組みをつくる
- ②集中的なリハビリなどで高齢者の状態を改善・維持する
- ③ロボット技術を用いたり、生活援助の大い手を地域のボランティアなどに拡大していくことで、福祉サービスを豊かにする

- ④制度が継続していくために介護報酬の見直しなどをし、介護サービスを適正化することで、社会保障費の著しい増加を軽減しよう

というようなどころでしようか。

これらの観点から、さまざまな改定が行われましたがその中から、共生型サービスと自己負担割合の見直しについて詳しく説明します。

共生型サービスは、高齢者と障がい者が同一の事業所でサービスを受けやすくするために創設されました。共生型サービスが創設されたことによって、介護の事業所が、障害福祉の指定を受けやすくなり、また逆に、障害福祉の事業所が介護の指定を受けやすくなります。つまり、介護保険サービスに切り替えなければならないという問題です。

たとえば、長年、障がいに詳しいヘルパーがほぼ固定で自宅を訪問してくれていたにもかかわらず、65歳を境に、介護保険法のサービスに切り替わることにより、見慣れないヘルパーに変更となったり、通い慣れたデイサービスから高齢者ばかりのデイサービスへ通うことになったりするなど、サービス利用者やその家族に不安と混乱を招いていました。なじみのある事業所が共生型サービスになることで、65歳以降も今までと同じように引き続き利用できるようになります。

共生型サービスが導入されることで、介護保険優先原則にしばられることなく、使い慣れた法人として、高齢者だけではなく、児童や障がい者などさまざまなご利用者の支援に力を入れていくことで、誰もが、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会づくりや、地域共生社会の実現に尽力していると思います。

京都老人福祉協会では

住み慣れた地域の中で自分らしく暮らし続けることは、性別、年齢、障がいの有無などに関わらない普遍的なニーズです。京都老人福祉協会でも、そうした普遍的なニーズを一体的に支援するため、事業の枠組みやサービスの提供を検討し、実践を積み上げていくことが必要と考えています。

現在、藤森センターでは、園児・障がい児童・高齢者がひとつの建物で過ごしています。稲荷の家ほっこりでは、2階では子育て中の親子同士が、1階では高齢者が過ごし、高齢者と子ども、高齢者と子育て中の母さんが交流しています。また、伏見水道局の跡地に、高齢事業、保育事業、障がい者支援窓口といったさまざまな方を対象とした事業を始める予定です。

法人として、高齢者だけではなく、児童や障がい者などさまざまなご利用者の支援に力を入れていくことで、誰もが、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会づくりや、地域共生社会の実現に尽力したいと思います。

年収が、1人暮らしで280万円以上340万円未満、夫婦で346万円以上463万円未満のご利用者は、これまでの2割負担が据え置かれます。1割負担のご利用者の範囲に変更はありません。40～64歳の第2号被保険者は、所負担となる対象者は約496万人のうち、3割負担とされています。

介護保険の対象者約496万人のうち、3割負担となる対象者は約12万人（約3%）と見込まれています。



こんなサークルやってます

歌の広場

- 日時／場所…毎月1回／京都老人福祉協会 訓練室
- 対象／人数…特別養護老人ホーム、養護老人ホーム／50～60人程度
- 内容…ボランティアの方のピアノ伴奏に合わせて利用者さんに好きな曲や、季節の歌を歌って楽しんでいただく

歌の広場の歴史

ボランティアの芦田さんは元は京都老人福祉協会の職員をされていました。芦田さんが職員だったころ、ホーム内を巡回していた時に、歌の好きな利用者さんがおられることを知り、オルガンを弾くので歌おうと誘ったら、

「歌いたい！」という声が上がりました。最初は数人のメンバーでしたが、どんどん参加人数が増え、みんなで歌を歌える場所を作りたいと思ったことで正式に「歌の広場」が始まりました。

芦田さんの声

利用者の中には目を開けられない人や、歌うことが困難な人もおられます。口ずさんだり、手拍子でリズムをとったりして参加されています。曲目はみなさんがおなじみの童謡・唱歌・昭和の歌謡曲などを選んでいます。また声が出しやすいように曲の音程を下げています。歌うと血液の循環もよくなり、健康に良いと言われてい

ますよね！歌の後は、みなさんのお顔が晴れ晴れとして、とってもいい表情になられるんですよ！「来月も楽しみ」という声がどこからとも無く聞こえてくると、私は喜しくて元気をいただき、来月も頑張るという気持ちになります。歌の広場では、毎回最後に「星影のワルツ」を歌っています。これは別れの曲なので、最後に歌おうということになりました。歌の広場では定番の曲になっています。

職員の声

特養の利用者の中には、元気で歌の好きな方が多く、毎月1回の歌の広場をとても楽しみにしておられます。歌い終わって部屋に

戻られた際も、歌を口ずざまれたり、表情が明るくなったりしておられます。

京都老人福祉協会には 利用者さんを対象にこんなサークルもあります

小物作りサークル



華道サークル



書道サークル



パンサークル



京都老人福祉協会の

胃袋を支える

「さっちゃんさくら」



今日は、京都老人福祉協会の給食事業部のことです。現在、厨房は法人内に7か所あり、一日に作る食数は1800食に及びます。「さっちゃんさくら」の名通り、京老の各サービスの利用者さんのお食事や配食サービス、大龜谷マルシェでの食品の販売、地域からの食事依頼の対応以外にも、日常生活支援事業「ぱとな」など、様々なサービスを行なっています。

きつちん業務だけではなく、法人内のダブルジョブ制度を利用し介護の仕事、栄養士、事務局の仕事に関わる職員もあり、働き方に様々な形を作ることで、職員の意識も高まっています。また、「ワークパートナーユニット（就労支援A型）」と協力し業務の展開を広げ、きつちん清掃や、きつちん業務、マルシェの運営など行なっています。日々の業務の中で困難に遭遇することが多々ありますが、業務を分担しあり協力することで解決しています。

今後の目標は「今までやったことないことへの挑戦」自分たちがやってみたいと思ったことを仕事にしていきたいと思っています。

お問い合わせは、京都老人ホームきつちんさくら配食サービスまで。お気軽にご連絡ください。

きつちんさくらとは

今年度は、墨染で始まる新規事業に

きつちんさくらも加わり「喫茶～集え

る場所」という形で提供していくことを考えています。事業所内保育では、きつちんも関わる場面を探し、何が出来ていいのか？名前を変えたほうがいいのではないか？という声も職員から出ています。食事以外のことでも、自分たちが出来ることがあるのではないかと日々模索しています。

きつちん業務だけではなく、法人内のダブルジョブ制度を利用し介護の仕事、栄養士、事務局の仕事に関わる職員もあり、働き方に様々な形を作ることで、職員の意識も高まっています。また、「ワークパートナーユニット（就労支援A型）」と協力し業務の展開を広げ、きつちん清掃や、きつちん業務、マルシェの運営など行なっています。日々の業務の中で困難に遭遇することも多々ありますが、業務を分担しあり協力することで解決しています。

今後の目標は「今までやったことないことへの挑戦」自分たちがやってみたい

ことを仕事にしていきたい

と思っています。

大龜谷マルシェ

「もっと京老について知ってもらいたい」。そんな思いで平成27年度より、大龜谷の京都老人ホーム敷地内にて開催していた朝市。大龜谷を活性化して、将来的には伏見界隈のお店が集まる場になってほしい、ということで今年6月から「大龜谷マルシェ」と名前を変えて開催しています。次回11月17日（土）、10:00～大龜谷の京都老人ホームで開催される、大龜谷マルシェにきつちんさくらも出店します。京老自慢の味をぜひ味わってみてください。

配食サービス

配食サービスは現在一日500食ほどの利用があります。健康への配慮はもちろん、日本全国ご当地の料理や季節にあわせた料理を提供したり、誕生日にはケーキをプレゼントしたりと、「食べる楽しみ」を味わって頂けるよう工夫をしています。きつちんさくらでは、配食サービスの申し込みも受け付けています。昼食は一食500円から（条件あり）です。即日対応も可能です。詳しくは、(075-645-7173) 京都老人ホームきつちんさくら配食サービスまで。お気軽にご連絡ください。



もっと、ずっと、「この町で
今年も開催します!
たけすみフェスタ」

事業所
リレー
コラム

東高瀬川センター
もと、ずっと、「この町で
今年も開催します!
たけすみフェスタ」

東高瀬川センターは、平成11年5月に開所しました。それから7年後の平成18年に、東高瀬川地域包括支援センターは京都市より委託を受けスタートしました。

当時、理事長は地域を歩き、地域の方々と交流をもちながら、地域との係わりを築いていかれましたとお聞きしました。そのおかげもあり、東高瀬川センターや地域包括支援センターを表す係員と関わりが強く、地域に根付き、連携が取れている事業所ではないかと思います。

地域包括支援センターができるて12年、所属する職員の顔ぶれは少しずつ変わりました。職員が変わっているからこそ、職員が変わ

つても、直ぐに地域に馴染める環境をつくれているのではないか。
そして、もう一つの強みは『チーム力』だと思います。同世代の職員で構成されている事もあり、真剣なケースの相談や助言、プライバートな悩み事まで恐懼無く、おしゃべりする事ができます。そんな自然な係わりからチーム力や固定観念にとらわれないユニークな発想が養われているように思います。

その地域との係わりの強さを活かし、昨年、各関係役員や福祉事業所、住宅支援事業所、各専門職の協力を得ながら、地域の健康意識を高めるためと各専門職（医師、歯科医師、薬剤師、栄養士）と地域の方々と顔が見える関係作りを目的とした「たけすみフェスタ」を開催しました。手探りで開催した事もあり、開催後の反省会では厳しい意見もありましたが、継続して開

■編集後記■

広報委員になって1年と数ヶ月。さまざまな内容に触れることができました。介護は分野外だった私にとって、制度や介護に関する知識を勉強するよい機会でした。知らないことを知るというのは、楽しいことです。読んでくださるみなさまにも、「へえ~」「そうなんだ」と思っていただければ幸いです。

広報委員 古川奈央子



催してほしいという意見もいただきました。昨年度の反省点をふまえ、今年度も11月4日(日)に開催することが決定しました。

医師や歯科医師（健康相談）（ミニ講演会）、薬剤師（お薬相談）、住吉女性会（大正琴）、住吉学区社協（活動紹介）（バルーンアート）、竹田JA（野菜販売）、栄養士会（お食事・栄養相談）、福祉用具事業所（測定会）など盛りだくさんな内容で開催します。

今後、東高瀬川センターや地域包括支援センターが担っていくかなければなりません。地域の方々の協力やチーム力をいかしながら、邁進していくければと思います。

たった!」と言って頂けるよう、終の住処としてお一人お一人の生活をしっかりとサポートさせて頂きます。地域の方と合同の企画も進行中です。

さくらハウス 七瀬川



こんにちは！4月に産声をあげ出来立て
ほやほや！利用者さんと地域に密着した
さくらハウス七瀬川の紹介をさせていただきます♪



お一人でゆっくり、のんびりと入浴できる癒しの空間です。手すりがたくさんあって安心です。もちろん機械浴も可能ですよ♪

まずは デイサービス！



脳トレ…？計算ドリル…？いえいえ、一味違います！専用の教科書を使い懐かしい・馴染み深い内容。利用者の発言をどんどん引き出して認知機能を刺激!!



次は 食事！

なんと！レストランMUSUBIにて数種類あるメニューからその日の気分や体調に合わせて選択する事が出来るのです！季節の食材を取り入れた日替わりメニューもあり、栄養バランスの取れた出来立ての美味しいご飯を召し上がって頂けます！

次は ヘルパー！

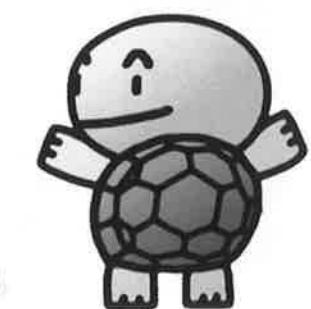
七瀬川では6名の訪問員が在籍していますが、今まで特養や障碍者就労支援などで働いていた職員が多く、手探りの状態からスタートしました。慣れないお宅訪問の中、以前の職場で培った知恵や能力を駆使しチーム一丸となって仕事に励んでいます。7月からは定期巡回随時訪問介護看護も始まり、より手厚いサービスが受けられるようになりました。訪問中は一人で援助することが多いため、不安な気持ちや判断に迷ってしまうこともあります。それでも七瀬川には、丁寧に教えて下さる上司や先輩も多く、いつでも相談できる環境があります。それこそが七瀬川の強みです。これからも地域の皆様を笑顔にできる魅力ある事業所を目指していきます！！

是非一度見学にいらしてください♪
職員一同お待ちしております!!!!

最後に サ高住！



「七瀬川に住んで良かった！」と言って頂けるよう、終の住処としてお一人お一人の生活をしっかりとサポートさせて頂きます。地域の方と合同の企画も進行中です。



福祉
×
観光

秋の京都に 出かけよう



行楽シーズンまったく中！秋の京都は毎年観光客で大にぎわいです。 「足腰が弱くなったから…」や「トイレが心配だから…」といった理由でおでかけを諦めてしまう高齢者の方も多いと思います。しかし、いくつかの注意点に気を付ければ、高齢者でも楽しく快適におでかけができます！

車いすを使って おでかけしませんか？

歩行が難しくなり、車いすでの移動が必要な方でも、介助者と一緒におでかけを楽しみませんか？ 今回は車いすでも快適に観光できるスポットをご紹介します。

※今回は、車いす一台に介助者(同伴者)1～2名での観光スタイルを前提にしています。

車いす介助のポイント

京都の寺社仏閣では、通路に玉砂利が敷かれている場所が非常に多いです。車いすにとって玉砂利は大敵で、車いすの前輪が玉砂利に振られてしまい、動きづらくなってしまいます。その時の対処法として、車いすの向きを変えて後ろ向きにして引きながら進みます。そうすると、前輪に比べて大きい後輪が前になります、前輪の振れと、玉砂利の抵抗が少なくなります。また、おでかけ前には車いすのタイヤの空気圧のチェックを忘れずにしま

しょう。空気が減っていると、操作感が重たくなったり、ブレーキの効きも悪く、介助者も疲れてしまいます。



観光スポット

東福寺

車いす対応トイレ：2か所

開山堂と本坊庭園の拝観は階段があるため、難しいです。しかし、通天橋や臥雲橋、その他の境内は多少の段差や勾配はあるものの、介助者がいれば十分に見て回ることができます。有名な「東福寺の紅葉」も車いすで見に行くことができます。



平等院 凤凰堂

車いす対応トイレ：3か所

(庭園内：2か所、ミュージアム鳳翔館内：1か所)

玉砂利が敷いてある場所が多いです。多少の段差、勾配はありますが、基本的に車いす介助での拝観は可能です。ミュージアム鳳翔館内はバリアフリー仕様となっていますので、安心して拝観できます。

このほかにも、京都には車いすでお出かけできるスポットがたくさんあります。

「京都ユニバーサル観光ナビ」というサイトで検索できます！

URL → <http://www.kyoto-universal.jp/>